

科目ナンバー	EDU-2-058-j	科目名	教育方法・技術(初等)		
教員名	村山 賢哉、青木 博	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2

概要	<p>前半では、児童が身に付ける資質・能力の育成を目指し、学習指導要領と授業との関係、学習指導案のもつ意味、よい授業を創るための指導方法や指導形態、指導技術等を学びます。前半の最後には、学修内容を踏まえ、よい授業を創るために必要な事柄についてディスカッションをし、その結果をレポートにまとめます。</p> <p>後半では、小学校でのプログラミング教育必修化の流れを含む、教育の情報化に対応する能力の育成を目指し、教育における情報化の流れや意義、情報機器端末の利用、各教科における論理的思考力育成のための情報通信技術の導入について、実践的に学んでいきます。</p>
----	---

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法の基礎的理論や、求められる資質・能力を育成する主体的・対話的で深い学びなどの教育方法の在り方などについて理解すること。</li> <li>・学習指導要領と授業との関係を知るとともに、授業を成立させるための教材や教育環境などの要件を理解すること。</li> <li>・学習評価の基礎的な考えや方法などを理解すること。</li> <li>・学習指導案の意義や構成、指導形態や指導方法、発問、板書、評価規準など授業づくりに必要な要素を理解すること。</li> <li>・教育実践における情報通信技術の適切な導入の仕方について検討すること。</li> <li>・情報通信技術(プログラミングや情報モラルを含む)の基本的知見を習得し、それを教育実践に生かす力を付けること。</li> </ul>
------	--

「共愛12の力」との対応

識見	自律する力		コミュニケーション力		問題に対応する力	
共生のための知識	○	自己を理解する力		伝え合う力		分析し、思考する力 ○
共生のための態度		自己を抑制する力		協働する力	○	構想し、実行する力 ○
グローバル・マインド		主体性	○	関係を構築する力	○	実践的スキル

教授法及び課題のフィードバック方法	<p>前半では、授業に必要な指導技術や指導方法などの基礎を学ぶとともに、よりよい授業をつくるための諸要素についてグループで協議をしたりレポートにまとめたりします。なお、グループワークや協議のために個人レポートの作成・提出をし、口頭で評価を行います。なお、講義内容に関する質問の時間は毎回設けます。</p> <p>後半では、コンピュータを使用して初等教育向けのプログラミング教材を活用し、教育の情報化についての知見を習得する予定です。</p>
-------------------	--

アクティブラーニング	○	サービスラーニング		課題解決型学修	○
------------	---	-----------	--	---------	---

受講条件 前提科目	教職を志す人の必修科目です。理論的な把握をしつつ実践的に取り組みましょう。
-----------	---------------------------------------

アセスメントポリシー及び評価方法	授業への参加状況、課題レポートや小テストなどで総合的に評価します。
------------------	-----------------------------------

教材	教材は特定しません。授業に必要な教材を、その都度準備します。
----	--------------------------------

参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導要領(文部科学省)・小学校学習指導要領解説総則編(文部科学省)</li> <li>・その他、必要に応じ、参考図書を紹介します。</li> </ul>
------	---

## 内容・スケジュール

### 1週目

授業学修内容	<p>シラバス授業:授業ガイダンス</p> <p>授業の概要とスケジュール、関連資料等についてシラバスに基づき解説する。その上で、授業運営、評価等について説明を行う。</p>		
授業外学修内容	シラバス授業で授業について必要な情報を収集したうえで履修手続きをしてほしい。	時間数	

### 2週目

授業学修内容	<p>授業づくりの基礎</p> <p>これからの社会を生きる児童に求められる資質・能力について理解し、そのために求められる主体的・対話的で深い学びの実現を目指す指導の在り方、学習指導要領で示す指導内容と単元・題材の関係、学習評価などについて考え、授業のつくり方について概観する。</p>		
授業外学修内容	講義を復習し、学習指導要領及び同総則編により児童が身に付ける力や授業づくりの考え方をまとめておく。次回の教材研究の在り方を学修するについ	時間数	2

容	て、与えられた教科書教材を熟読する。		
3週目			
授業学修内容	<p>教材研究</p> <p>提示された教科書教材をもとに教材研究の手順を学ぶ。学習指導要領を踏まえた単元・題材の目標の作り方と指導計画の立て方、指導内容と各学年相互や各教科等との関連、児童の実態把握、単元の目標と単位の時間のねらいの関係、指導方法や学習評価等について理解する。</p>		
授業外学修内容	講義内容の復習をし、次の学習指導案についての講義に向け配布された指導案を熟読し、気付いた点や感想をまとめてくる。	時間数	4
4週目			
授業学修内容	<p>学習指導案</p> <p>学習指導案の構成や各構成要素のもつ意味を理解し、指導案作成の基礎知識を身に付ける。講義内容を踏まえ事前に配布された指導案について気付いた点や感想を基に議論する。</p>		
授業外学修内容	指導案の構成等を復習しながら、指導案作成で学んだことや提示された指導案の優れている点等をまとめ提出する。	時間数	5
5週目			
授業学修内容	<p>様々な指導方法や指導形態</p> <p>一斉指導と個別指導、教師主導型と児童主体型の授業、問題解決的な学習、アクティブラーニング、チームティーチングや少人数指導などの指導方法や形態、それぞれの特徴やねらいなどを学ぶ。</p>		
授業外学修内容	様々な指導の方法や形態について復習し、児童にとり望ましい授業の在り方についての考えをまとめる。また、次時で扱う地域人材の活用についての具体例を調べレポートとしてまとめる。	時間数	5
6週目			
授業学修内容	<p>様々な指導技術1</p> <p>教育施設・設備や関係機関などの物的資源、学校と地域との連携を踏まえた地域人材や専門家などの活用、教材・教具の活用方法など、よりよい授業を創るための諸要素を知る。</p>		
授業外学修内容	よりよい授業を創るための物的資源・人的資源の重要性を復習した上で、それらをどう活用すべきかについてまとめる。	時間数	5
7週目			
授業学修内容	<p>様々な指導技術2</p> <p>授業における質問と発問の違いや望ましい発問の在り方、板書の役割りと留意点などについて学び、提示された発問や板書をもとにそのよさを話し合う。</p>		
授業外学修内容	講義で使用した資料等から優れた発問、板書が児童の学びをどのように深めるかをまとめる。	時間数	6
8週目			
授業学修内容	<p>ディスカッションとレポート作成</p> <p>これまでの講義から優れた授業を創るために必要な要素について、グループで10観点から話し合う。その結果を発表し、全体でディスカッションする。また、ディスカッションの内容を基に提出するレポートの項立てを考える。</p>		
授業外学修内容	ディスカッションの内容を基に、優れた授業を創るのに必要な要素についてまとめレポートとして提出する。	時間数	5
9週目			
授業学修内容	<p>教育実践における情報機器の活用</p> <p>様々な情報機器の特質・利用の目的や、学校での教育実践において情報機器を導入することの意味について概観する。そのうえで、ディスカッションを通じて、情報通信技術の有効な利用について具体的に検討する。検討した内容は次回授業でグループごとに発表する。</p>		
授業外学修内容	予習では、教育実践で用いられる情報機器について調べておくこと。復習では、ディスカッションで得られた意見についてグループでまとめ、パワーポイント資料を用意する。	時間数	3
10週目			
授業学修内容	<p>情報技術を活用した指導方法・指導形態、情報機器・情報ネットワークと学習活動</p> <p>前回のディスカッションで得られた意見について、グループで発表する。発表はパワーポイントを用いる。各グループの内容を基礎にしながら、情報技術を活用した指導方法や指導形態、情報機器・情報通信ネットワークと学習活動について検討する。</p>		
授業外学修内	予習では、グループで協働して発表の準備を行う。復習として、全員に小レポートの提出が求められる。これは、自らの発表とフィードバック、講師の解説	時間数	5

容	などから得られた知見を改めて見直し、教育実践についての情報機器の利用について自分自身の現時点での考え方をまとめることが求められる。		
11週目			
授業学修内容	情報技術を活用した指導技術 教育実践において情報技術を活用するために、情報機器を活用した教材、特にeラーニングについて解説する。実際にeラーニングシステムに触れながら、教育実践に活用するための知見を学ぶ。		
授業外学修内容	予習として、本学eラーニングシステムのアカウントを作成し、クラスに参加しておくこと。復習として、授業で紹介したスキルを用いて課題を作成する。	時間数	2
12週目			
授業学修内容	情報活用能力の指導方法(1) 児童が情報・通信ネットワークを活用するための基本的な能力を育成するための指導法を学ぶ。また、プログラミング学習を通じて論理的思考力を育成するための基本的な知見を学ぶ。		
授業外学修内容	プログラミング教材を実際に使用し、自身でプログラミングを体験してみる。	時間数	5
13週目			
授業学修内容	情報活用能力の指導方法(2) 情報活用能力を育成する上で、欠かすことのできない情報化社会の課題や情報モラルについて概観する。		
授業外学修内容	予習では、情報モラルについて、今まで報じられた具体的な事例について、複数例を調べておくこと。授業中に、事例について報告を求めるのでしっかり準備しておくこと。復習では、ディスカッションで得られた意見について小レポートを作成する。	時間数	3
14週目			
授業学修内容	模擬授業に向けた指導案作成 情報通信技術を用いた模擬授業を実践するために、教材研究、授業構成、評価規準等を検討し、指導案を作成する。また、単に情報通信技術を用いるだけでなく、プログラミング教育必修化に対応すべく、論理的思考力育成をめざした教材を作成していく。		
授業外学修内容	予習では、これまでの授業を自身で整理して、情報通信技術の活用効果が大きい授業内容を検討しておくこと。	時間数	5
15週目			
授業学修内容	模擬授業の発表と協議 グループごとの模擬授業を通して、授業研究、授業の反省を行う。授業の狙いと効果について、互いにディスカッションしながら指導法の向上を図る。		
授業外学修内容	模擬授業の実践のために、しっかりと準備をしておくこと。	時間数	5
上記の授業外学修時間の合計		60	
その他に必要な自習時間		30	

Number	EDU-2-058-j	Subject	Educational Methodology(Elementary)			
Name	村山 賢哉(Murayama Kenya)、青木 博(Aoki Hiroshi)	Year and semester	S	Second semester for 2020	Credits	2
Course outline	<p>In the first half , we will learn the qualities and abilities the pupils should acquire in elementary school, the relation between Course of Study and the lessons ,and the importance of the lesson plans. We also learn various teaching skills to create good lessons. At the end of the first half, we will make a discussion based on what we have learned and make the paper.</p> <p>In the second half, we aim to train the ability to respond to informationalization of education, including the necessity of programming in elementary school. Students learn about the flow and the significance of informationalization in education, use of information equipment terminals, and introduction of information and communication technology in each subject.</p>					